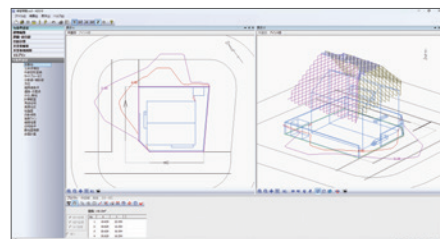
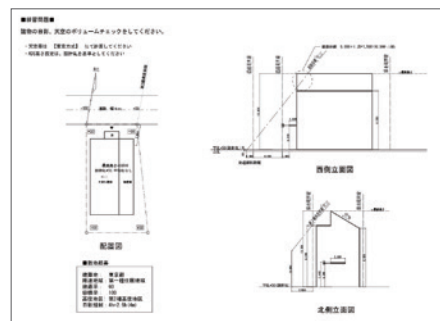




ADS の研修は「設計に欠かせない」として、派遣スタッフの提案から始まった



ADS 研修の練習問題



研修後の復習用の練習問題も準備されている

ADS スキルを学んで派遣社員としての市場価値を向上 設計現場で求められる設計補佐レベルの人材へ

会社概要

社名／パーソルテンプスタッフ株式会社 設立／1973 年 5 月
代表／代表取締役社長 木村和成 所在地／東京都渋谷区 事業内容／労働者派遣事業、
有料職業紹介事業 グループ会社数／155 社（国内 49 社 海外 106 社 ※ 2026 年 7 月）
<https://www.tempstaff.co.jp>

育てて送り出す育成主体の手法

東京都渋谷区に本社を置くパーソルテンプスタッフ株式会社は、わが国を代表する人材派遣会社の一社である。「はたらいて、笑おう。」をグループビジョンとする同社は、近年人々の多様な生き方に寄り添い、誰もが自分らしい働き方を実現できるような環境や成長機会を提供することに注力している。そして、そんな同社の取組みを象徴するような展開がこの春あった。建設業界への CAD オペレーター派遣を主力としていた CAD・Creative 事業部が、2026 年 4 月に建設エンジニアリング事業部と名称を変えてリスタートしたのである。同部の人事室マネージャーとして勤務している近藤広明氏は語る。

「これまでの当部は、建設業界を顧客に CAD オペレーターや BIM/CIM オペレーターの派遣を中心に展開してきました。実際、現在当部を通じて就業中の約 2,500 名は、そのほとんどが CAD オペレーターで、うち約 300 名が BIM/CIM オペレーターを兼ねているに過ぎません。しかし、建設業界のフィールドは設計から施工まで広汎な領域に

広がり、設計分野に限ってもより高度で多彩な専門技術が求められるようになっている。ところがこうしたニーズの変化に、自分たちは十分応えきれないと近藤氏は言う。

「——そこで、建設エンジニアリング事業部という新名称のもと、私たちは設計から施工に至る建設業界のあらゆる領域の業務課題を解決できるような専門部隊を目指そうと考えました。いわば建設業界の課題解決パートナーです。そのために私たちはここ数年さまざまな新しいチャレンジを開始しています。たとえば、BIM/CIM や天空率のような高度かつ専門性の高い設計スキルを持つ人材の育成も、その挑戦の一つである。ソフトが使えるだけのオペレーターではなく、一段高いレベルの設計補佐クラスの人材で新たなニーズに応えていくというのである。

「こうした人材はとても希少で、従来の“できる人を探して派遣する”やり方は難しいのが現実です。そこで生まれたのが“そのスキルは無いが、意欲ある方を育てて送り出す”育成主体の手法です。今では BIM/CIM ソフト研修と共に ADS 研修も開催し始めています。だが、人気の BIM/CIM



パーソルテンプスタッフ 建設エンジニアリング事業部
建設エンジニアリング人事室 マネージャー 近藤 広明氏

はともかく、専門性が高く活用場面も限られる ADS-win がなぜ選ばれたのか？

自社オリジナルの ADS 研修を立ち上げる

「天空率と ADS の研修を立ち上げたのは、もちろんお客様の声があったからです。そう答えてくれた近藤氏によると、近年、建設系企業に勤務中の派遣スタッフから“ADS-win を使えないか？”とお客様に訊かれたという報告が増えていたのである。そこで、実際に客先の組織設計事務所に派遣されて勤務している山下実那子氏の話聞いてみた。山下氏の前職はハウスメーカーの設計者であり、当時から ADS を駆使して天空率を業務に活用していた。そして、現職へ移ってからは組織設計事務所での勤務と並行してテンプスタッフ社内の ADS 研修の開発を兼任。現在はさらに ADS 研修の講師役まで引き受けている。まさに同社きつての ADS ユーザーなのだ。

「確かに私も客先で“ADS を使える人材”に対するニーズの高さをたびたび感じています。特に設計者の方から“天空率を使いたい、ADS を学びたい”という声をよく聞くのですが、同時に“ADS

ADS による天空率の活用スキルが多く設計現場で求められています それを修得すれば、派遣社員としての市場価値は大きく向上します

は怖くて触れない”とおっしゃる方も少なくありません。これは別に ADS のシステムが難しくて操作できないという意味ではない、と山下氏は言う。「実際、ADS の操作自体は本当にシンプルで誰でも直感的に使えますし、他のソフトに比べても操作は決して難しくありません。ただ、これを実務で効果的に使うには別のハードルがあることも確かかなのです」（山下氏）。

そのハードルとは何か？ 山下氏によれば、一つは天空率と関連法規の知識と理解が ADS 活用の大前提となっていること。そして、これを学ぼうと思っても、どうやって学べば良いのか分からず、コストや時間もかけ難いと考える人が多かったのだと言う。「ADS を用いたポリウムチェック等の作業は意匠設計の形状に関わる重要なものです。実際、ここを間違えてしまうと後々まで設計全体に影響かねません。“怖い”と感じる人がいるのも分かります」。そんな山下氏の言葉を受けて近藤氏はこう続けた。「しかし、だからこそ ADS と天空率のスキルが、これほど強く求められているのです。裏返せば、もしこのスキルを修得できればその人の派遣社員としての市場価値は大きく向上するに違いありません」。

こうした議論を経て、生活産業研究所の協力のもと山下氏を中心となって新たなカリキュラムが生まれテキストが作られた。そして、2022 年 8 月、独自の ADS 研修がスタートしたのである。

建設業界のトータルな課題解決パートナーへ

「ADS 研修は 2-3 カ月に 1 回のペースで、休日か土曜日に丸一日（10 ～ 17 時）かけて渋谷オフィスの研修室で開催しています。受講者はその都度募集しますが、たいがい 4 名前後で既に就業中の方が 8 割を占めています。就業先はほとんどが建築意匠設計ですね。授業もマンツーマンとまではいきませんが、それに近い形でみっちり行ってい

ます」（山下氏）。渋谷オフィス研修室の環境は受講生全員がデュアルモニタを使用。自身の操作画面とは別に講師の操作画面を常時見られるし、逆に講師側も受講生全員の画面を見ることができる。

では、研修自体の内容はどのようなものか？ 基本的には山下氏が生活産業研究所と共に編集したテキストに沿って、①法規 ② ADS-win の基本操作 ③実践——という流れで進める。①で ADS-win の概要や日影・天空率を中心とする法規のポイントを解説。②では ADS-win の画面操作の基本からデータインポート、敷地・方位・条件、日影・天空図作成。計算結果の確認から申請図レイアウトまで一連の操作をレクチャー。最後に③の練習問題で実際の運用も体感できる。

「基本操作が 4 割に対して 6 割は法規の説明をしていますね。実は生活産業研究所にマニュアルの研修動画が豊富に用意されており、操作だけでなくそれで学ぶこともできるんです……そこで私は“実務で大切なのは何か？”を重視。徹底して実務に沿った内容を心がけています。設計現場で実際に私が犯してしまった失敗や直面した課題もどんどん紹介していますよ」（山下氏）。

こうして ADS 研修は 2022 年 8 月から 2025 年 12 月まで既に 19 回開講され、計 51 名の派遣スタッフが受講。受講者からは「実務で使う方法が具体的に知れて良かった」「忘れかけていた関連法規を思い出せた」など、意欲的な感想が数多く届くなど成果も着実に上がりつつある。近藤氏からも取り組みをさらに強化していく計画だ。

「最近はお客様からも“ソフトが使える”に加え“ちゃんと知識がある人が欲しい”と言われます。そこで最近は専門知識の研修も計画中ですし、手付かずだった施工領域でも施工管理や施工事務等への対応を検討中です。こうした積み重ねにより、前述の建設業界のトータルな課題解決パートナーを目指していきます」（近藤氏）。



ADS 研修の様子



PC を 2 台使い、講師の画面を確認しながら受講できる



「法規」「基本操作」「実践」を 1 つにした研修を行っている



建設エンジニアリング人事室 マネージャー 近藤氏



事務、CAD オペレーターだけでなく、設計者、設計アシスタントといった建設専門の人材派遣にも力を入れている